

その自然は、観光資源にも、エネルギー資源にもなる。 宮古島で進む、太陽光発電による「持続可能な島づくり」。

年間100万人以上の観光客が、人口約5万人の島を訪れる。消費電力の変動は大きく、インフラは小さい。
需給とくらしを守り、環境負荷を抑えるために。市営住宅には多くの太陽光パネルとエコキュートが設置された。

太陽光発電とエコキュートによる挑戦。

「エコアイランド」宣言をした宮古島では、再生可能エネルギーの活用を推進しています。しかし、太陽光発電は天候などによる発電量変化が大きく、火力発電による調整が多く必要になります。そこで、大量のエコキュートを一括制御することで調整に協力し、電気料金の低価格化も実現するための実証事業が行われています。

「エコキュート」の名称は電力会社・給湯機メーカーが自然冷媒(CO₂)ヒートポンプ式電気給湯機を総称する愛称として取り扱っております。

災害対策に、エネルギー自給率向上に。

「エネルギーの地産地消」を進め、台風などの際の停電対策強化や、2050年のエネルギー自給率約50%の達成を目指す宮古島。パナソニックは機器の開発で、現場で、貢献を続けていきます。

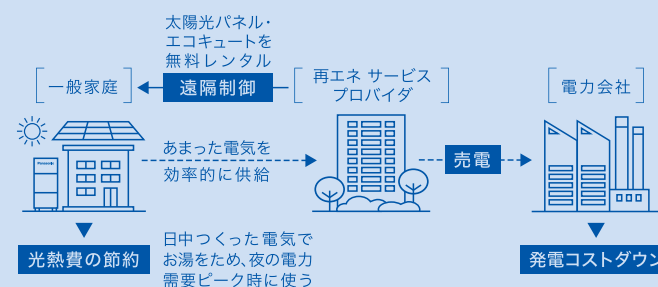


市営住宅40棟202戸にHIT®太陽光パネルを設置



エコキュートを遠隔制御し電力調整

再生可能エネルギーを活用する第三者所有モデル



持続可能な社会とくらしへ

パナソニックの再生可能エネルギー技術